

トロリーバス

昭和27年(1952)5月20日、東京都で最初のトロリーバスが、上野公園に向けて今井を出発しました。

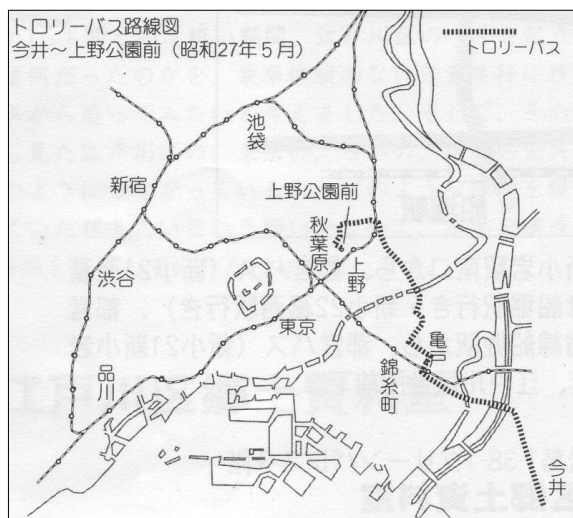
トロリーバスは、バッテリー(蓄電池)ではなく直接架線かせんから電気をとる電気自動車かきんで、線路が必要な路面電車の欠点を補いながら、大量輸送できる乗り物としてドイツで開発されました。



開通当時のトロリーバス

建設費が路面電車より安く、振動が少ないので騒音もなく、営業運行に必要な速度を出すことができました。

戦後間もない昭和26年(1951)2月に東京都が建設の準備をはじめ、翌年2月28日から工事に着手し、5月19日に完了しました。そしてその翌年5月20日から今井(江戸川区)を出発し、亀戸駅を經由して上野公園に至る路線(約15.5km)が営業を開始したのです。



トロリーバスの路線図

それまで亀戸と今井を結ぶ電車は荒川放水路で分断されており、バスによる代替がなされていましたが、戦後激増した交通量に対応できていませんでした。

しかしトロリーバスは荒川放水路を

小松川橋で直接渡りましたので、それまでの分断が解消され、地域の住民にとっては大変便利になったのです。

江戸川区内の停留所は、今井、瑞江、一之江三丁目、一之江、西一之江、一之江一丁目、松江、東小松川、小橋^{こばし}、小松川通で、開業当時の乗車料金は15円でした。

都内のトロリーバスは、その後、池袋～千駄ヶ谷四丁目間、千駄ヶ谷四丁目～渋谷駅間、池袋～品川間、池袋駅前～亀戸四丁目間、池袋駅前～浅草駅前間が順次運行されました。

しかし、昭和32年(1957)頃から都心部の人口減少とともに、自動車の普及がすすみ、道路の混雑が目立ちはじめました。トロリーバスの営業速度も落ち、輸送効率が低下したため、利用者も昭和36年度(1961)をピークに減少していきます。

東京都は公営交通事業の累積赤字が深刻となり、昭和42年(1967)8月に財政再建計画を立てました。その内容は、一部路面電車を廃止し、トロリーバスも廃止して普通のバスへ転換するというものでした。路面電車に比べて安い建設費も、普通のバスに比べれば割高であり、機動性も劣っていたためでした。

こうして昭和42年12月10日の渋谷駅～品川駅をはじめとして、トロリーバスは順次廃止され、最後まで残ったのが上野～今井間の路線でした。この都内で最後のトロリーバスを惜しむ地元住民の声は強く、同年6月の江戸川区議会では撤去反対の決議も行われました。

しかし、廃止後の代替えバスの運行を条件、昭和43年(1968)9月29日、午後9時45分の今井発上野公園行を終車としてトロリーバスは16年間の幕を閉じました。



最終バス（昭和43年9月）

江戸川区郷土資料室

〒132-0031 東京都江戸川区松島 1-38-1 グリーンパレス 3階
TEL : 03-5662-7176 (9:00~17:00)